

週末が明け、いよいよ最後の登校日となりました。今日もオーストラリアは朝は冷え込んだものの、日中は汗ばむ陽気となり締め括りに相応しい天気です。ファミリーと最後の週末を過ごした生徒達は笑顔で元気に登校してくれました。

感想を聞いてみると、テーマパークに連れて行ってもらった生徒、オージーバーベキューを楽しんだ生徒、充実した話が伝わってくる一方で、よく分からぬまま少し残念な週末に終わってしまった・・・という生徒も。みなそれぞれに挑戦し、楽しんできたホームステイでしたが、当然ながら全く違う文化背景、考え方、言語の中で必ずしも「馴染めなかった」と感じる生徒もいます。自分なりにチャレンジしてはみたけれどうまく行かなかった悔しさは、環境への不満、ファミリーへの不満とも結びつきがちですが、その中でも本当に自分はやるべき最善を尽くしていたのか？もっと遠慮なくはっきりと、会話の中でも分からないところを曖昧にせず、自分の希望をしっかりと伝えてお互いに意思疎通を図っていたと言えるのか？ついネガティブに物事を考えてしまっていたか？そういった観点で振り返り、自分への課題として落とし込んだ時に初めて体験が成長に繋がるのだと思います。そこは明るい郡高生、ある意味ハードな時間をしっかりとやり切り、体験を前向きに捉える笑顔には成長が滲んでいました。

今日は最後の英語レッスンを受けた後、最後の現地校児童、生徒との交流となりました。まずは小学生の教室を訪れ、校歌を披露した後グループ5の生徒が日本文化を紹介。その後空手の型の披露、折り紙交流を実施しました。LCCの児童たちは素晴らしくマナーが良く、少し難しいかな？と思われた文化紹介も、生徒がゆっくりはっきりプレゼンしたこともあり熱心に聞いて拍手を送ってくれました。

生徒達にとって当然ながら英語で折り紙を教えるのは初めての体験であり、最初は多少どぎまぎしていました。しかしすぐに慣れて、小さな机の上にはたくさんの鶴や紙飛行機、手裏剣、動物などが出来上がりました。45分の交流の時間はあっという間に過ぎ、天真爛漫の児童に手を振りながら教室を後にしました。その後Grade 11（日本の高校1年生）の生徒達に校内の農場を案内してもらい、飼育している羊と触れ合いました。案内してくれたLCCのバディたちと自然に笑顔で会話する様子からは研修を通しての成長を感じます。一方で、せっかくバディが来てくれている中でも友人同士日本語が飛び交うことも少なくないのも事実で、その行為がバディとの貴重な時間を無駄にしているのと同時に、自分がバディの立場だったらそれをどう感じるかを考えることも、今後の生徒の成長の中で不可欠な視点と思います。盛りだくさんの体験の中で、生徒も新しいことを一つひとつ消化していく必要があります。最後まで折を見て投げかけ、生徒自身が「自分で考える」きっかけを作っていきたいと思います。

ランチはLCCの生徒達と屋外でパーティスタイルでした。ピザやフルーツも並べられ、さらには最終日ということで多くのファミリーが気合を入れて作ってくれたランチボックスも抱えながら、オーストラリアでの最後の昼食を楽しみました。ここにきて初めて連絡先の交換ができたと喜ぶ生徒もおり、しっかり研修の後に続くものを作ってくれたようです。

ランチの後は現地バディの生徒達に向けて最後のプレゼンの時間となりました。ピアノの伴奏つきで「群青」を披露し拍手喝采を浴びた後、日本文化紹介、震災のプレゼン、その後場所を移動して校歌の合唱、応援団とチアによる日本流応援の披露を行いました。LCC校長先生からもお礼の言葉を頂き、郡高からは泉川先生よりLCCの校長先生始めサポート下さった先生方とバディへ感謝の挨拶を頂き、生徒代表より日本から持参したギフト（ダルマ）をプレゼントしました。

学校から1人1人修了証とギフトを頂き、LCCでの最後の1日が終了しました。本当にあつという間の約2週間でした。最初同じ場所で初めてバディと対面し、訳も分からず後を追うだけだった生徒達も、別れを惜しんで交流していました。

明日いよいよ帰国の途につきます。正式な活動報告書に関しましては本日が最後となりますので、8月3日(水)に郡高で生徒達の元気な笑顔を楽しみにお待ちしております。

最後まで安全を第一に、しかしあらゆる瞬間を成長のチャンスとして研修をサポートして参ります。

以上、海外ホームステイ研修最後の報告と致します。



《 最後の英語レッスン 》



《 LCC 児童への文化紹介 》



《 LCC 児童に折り紙レクチャー 》



《 Farm visit 》



《 バディとの最後のランチ 》



《 LCC で最後のプレゼンと修了セレモニー 》

